▼アジレクト錠　[内]

【重要度】　【一般製剤名】ラサギリンメシル酸塩　Rasagiline Mesilate　【分類】パーキンソン病治療剤 [選択的 MAO-B 阻害剤]

【単位】▼0.5mg・▼1mg/錠

【常用量】1mg/日

■肝障害，低体重，高齢者などは低用量も考慮

【用法】1日1回

【透析患者への投与方法】常用量（1）

【保存期 CKD 患者への投与方法】常用量（1）

【特徴】選択的 MAO-B 阻害剤.

【主な副作用・毒性】起立性低血圧，特発性睡眠，傾眠，衝動制御障害．幻覚，横紋筋融解症，悪性症候群，ジスキネジア，頭痛，めまい，消化器症状，狭心症，鼻炎，アレルギー等

【安全性に関する情報】過量投与で MAO-A 阻害作用が出現する可能性（1）特異的解毒剤なし（1）ＱＴ延長および心拍数や血圧変化に関与しない（Mendzelevski B, et al: Int J Clin Pharmacol Ther 2014 PMID: 24447649）

【吸収】空腹時投与に比べ，食後投与で AUC22%低下（1）

【F】約 35%（1）

【tmax】0.5hr（1）

【代謝】CYP1A2 で代謝（1）

【排泄】中に未変化体としてほとんど排泄されない（1）未変化体の抱合体や代謝物の抱合体として尿中に排泄（1）P-gp，BCRP の基質ではない（1）

【CL/F】98.8L/hr（Elgart A, et al: Basic Clin Pharmacol Toxicol 2019 PMID: 30218626）

【t1/2】1.8hr（1）反復投与時 5.85hr（Elgart A, et al: Basic Clin Pharmacol Toxicol 2019 PMID: 30218626）

【蛋白結合率】90%程度（1）

【Vd】86.7±39.0L/body（1）Vss/F 762L/body（Elgart A, et al: Basic Clin Pharmacol Toxicol 2019 PMID: 30218626）

【MW】267.34

【透析性】除去されにくいと思われる（5）

【O/W 係数】

【相互作用】併用禁忌薬多数あり（1）フルボキサミン使用時には切り替え間隔をあける規定あり（1）セロトニン症候群に関する注意（1）

【主な臨床報告】レボドパ製剤使用時の wearing-off を改善し，エンタカポンの代替となるかもしれない（Muller T: Expert Opin Drug Metab Toxicol 2014 PMID: 25196265）

【更新日】20230928

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。